



新型コロナウイルス感染症の知識 セルフチェックシート



ウイルスと感染症の知識（20問）感染症対策の知識
（20問）、合計40問の設問に答えてセルフチェック！

設問と解答

新型コロナウイルスと感染症の知識

次の設問が正しいければ○間違っていれば×を回答欄にご記入ください

本シートでは新型コロナウイルスをコロナウイルス、
新型コロナ感染症をコロナ感染症と呼びます

NO	チェック項目	回答
1	コロナウイルスの感染経路は飛沫感染と接触感染がほぼ同数である	
2	コロナウイルスに感染するのは気道の粘膜細胞にウイルスが侵入した時である	
3	コロナウイルスが気道に付着すれば高い確率で粘膜細胞に侵入し感染する	
4	コロナ感染症を発症するのは気道の細胞内に侵入して増殖し炎症を起こした時である	
5	コロナウイルスが細胞内に侵入して感染しても発症するとは限らない	
6	コロナウイルスに感染して無症状の人でも有症状者と同じようにウイルスを拡散している	
7	コロナウイルスが付着した食べ物を食べると非常に高い確率で感染する	
8	咳やくしゃみをしなくても患者が吐いた息だけで近くにいる人は感染する危険がある	
9	腎臓病や糖尿病など免疫力の低い人はコロナウイルスに感染しやすいので厳重な対策が必要である	
10	高齢者のほうが若い人よりコロナウイルスに感染しやすいので注意が必要である	

新型コロナウイルスと感染症の知識

次の設問が正しいければ○間違っていれば×を回答欄にご記入ください

NO	チェック項目	回答
11	目の角膜細胞からコロナウイルスが侵入するとコロナ感染症を発症することがある	
12	コロナウイルスはインフルエンザと異なり湿度にも強いので加湿しても効果は無い	
13	ファイザーのワクチンを接種しているとコロナウイルスに感染するリスクが約90%減る	
14	ワクチンを接種した人は感染しても周囲にウイルスを拡散するリスクが少なくなる	
15	コロナ感染症の重度化による肺炎はインフルエンザ同様肺炎球菌によるものが多い	
16	コロナ感染症の発症者が咳をするとマイクロ飛沫によって10万個のウイルスが飛散する	
17	コロナ感染症では発症直前が感染力のピークなので発症直前の濃厚接触者が最も危険である	
18	サージカルマスクは1000分の5mm以上のウイルスしか補足できないので10000分の1mmのコロナウイルスは補足できない	
19	コロナウイルスは体外に排出されると通常12時間程度で死滅するが表面がツルツルの物質上では長く生存する	
20	手に傷があると傷口からコロナウイルスに感染するので注意が必要である	

新型コロナ感染対策の知識

次の設問が正しいければ○間違っていれば×を回答欄にご記入ください

NO	チェック項目	回答
21	殺菌・消毒と表示がある薬用ハンドソープで手洗いすればコロナウイルスが殺菌できる	
22	手すりを消毒する時はあらかじめ雑巾を濡らしてからアルコールを浸み込ませると良い	
23	石鹼で念入りに手を洗えば、手に付着したコロナウイルスは100%洗い落とせる	
24	アルコール手指消毒剤で正しい消毒を行えばほぼ100%手に付着したウイルスを殺菌できる	
25	入浴介助でマスクを着用すると体温が上がり呼吸が苦しくなるが、ガマンして感染対策を優先させなければならない	
26	感染者から排出されたウイルスは12時間も生存するので、居室に人が出入りしてから12時間は何度か換気をすべきである	
27	うがい薬を使う方が水でうがいするよりも感染対策に効果がある	
28	コロナ感染症はほとんどが飛沫感染なので、手指消毒より正しいマスク装着のほうが重要である	
29	マスクを付けていない利用者と2m以内で会話をする時には、フェイスシールドを着用しなければならない	
30	陰部洗浄で飛沫が飛ぶおそれがある時は、ゴーグルかフェイスシールドを着用しなければならない	

新型コロナウイルスと感染症の知識

次の設問が正しいければ○間違っていれば×を回答欄にご記入ください

NO	チェック項目	回答
31	ウレタンマスクは不織布に比べウイルス捕捉率が格段に低いので業務で使用しないほうが良い	
32	ユニットなどのケアのグループは人数が少ないほうが感染が発生した時感染拡大を防げる	
33	薬用ハンドソープの補充をする時はボトルを洗浄してから補充しなければならない	
34	介護職員など人が頻繁に出入りしない利用者の居室でも、1日3回は窓を開けて換気しなければならない	
35	アルコールによる手指消毒を行っていれば手洗いはしなくても良い	
36	感染者数が減っても都道府県を超える移動や宿泊を伴う旅行は避けた方が良い	
37	利用者間の感染を避けるために平常時から食事席の間にはアクリル板を設置しなければならない	
38	ポピドンヨードによるうがいは甲状腺に悪影響を与える恐れがあるので多用は避けた方が良い	
39	施設内で感染者が出た場合はホームページなどで公表しなければならない	
40	施設内感染発生時のPCR検査で陰性であればその後は特に注意は必要ない	

解答と解説
ウイルスと感染症の知識

解答と解説・ウイルスと感染症の知識

次の設問が正しいければ○間違っていれば×を回答欄にご記入ください

NO	正解	解説
1	×	コロナウイルスの感染経路は圧倒的に飛沫感染が多い
2	○	
3	×	ウイルスが気道に付着しても粘膜細胞は粘液に覆われているので、簡単には細胞に侵入できない
4	○	
5	○	
6	×	無症状の人はウイルスの増殖が少ないので他人に感染させるリスクは低い
7	×	消化器官の細胞からウイルスが侵入して感染することはないので感染の確率は極めて低い
8	○	
9	×	免疫力の低い人は感染した時に発症しやすいだけで感染のリスクは他の人と同じである
10	×	高齢者はウイルスに感染した時に発症しやすいだけで感染のリスクは他の人と同じである

解答と解説・ウイルスと感染症の知識

次の設問が正しいければ○間違っていれば×を回答欄にご記入ください

NO	正解	解説
11	×	コロナ感染症を発症するのは気道の粘膜細胞にウイルスが侵入した時だけである
12	×	湿度が高いと気道の粘膜を覆う粘液が増えてウイルスをブロックするため感染リスクが低くなる
13	×	臨床実験で「90%以上」と確認されたのは発症予防効果であり感染予防効果ではない
14	○	
15	×	コロナ感染症で起こる肺炎はウイルス性肺炎と細胞の免疫異常（サイトカイン）である
16	×	1回の咳で10万個の飛沫が飛んでも全ての飛沫にウイルスが含まれる訳ではない。重症のインフルエンザ患者の場合、1回の咳でする飛散するウイルスは1000個程度でそのうち100分の1しか感染力はない
17	○	
18	×	ウイルスが付着した飛沫の大半は1000分の5 mm以上の大きさなのでほとんどは補足できる。ウイルスが単体で空中を浮遊することはない
19	○	
20	×	手の傷にコロナウイルスが付着して細胞内に侵入しても、増殖できずに死滅するので発症する可能性はゼロである

解答と解説
感染症対策の知識

解答と解説・感染症対策の知識

次の設問が正しいければ○間違っていれば×を回答欄にご記入ください

NO	正解	解説
21	×	薬用ハンドソープで殺菌効果があるのは細菌や真菌などで、ウイルスに対しては全て殺菌効果はゼロである
22	×	雑巾を濡らすとでアルコールが薄まり殺菌効果が低下する
23	×	手洗いによる除菌率は58.1%（都立駒込病院）というデータがあります
24	×	手指消毒剤による殺菌率は57.3%（都立駒込病院）というデータがあります
25	×	浴室は極端に湿度が高く気道の粘液が増え感染リスクが低下するので、苦しい時はマスクを外しても良い
26	×	感染者から飛散した飛沫は最長でも3時間で床に落ちるので、その後換気の必要はなくなる
27	×	インフルエンザでは水とうがい薬で予防効果に差はありません
28	○	
29	×	感染者が発生していない状況でフェイスシールドは必要ありませんし、たとえ利用者が感染していてもマスクで十分に飛沫を防ぐことができます
30	×	利用者が感染者でない限りゴーグル・フェイスシールドは必要ありませんし、感染していても尿にウイルスが排出されることはありません

解答と解説・感染症対策の知識

次の設問が正しいければ○間違っていれば×を回答欄にご記入ください

NO	正解	解説
31	○	
32	○	
33	○	
34	×	頻回に換気が必要な場所は不特定多数の人が出入りする場所である
35	×	手に付着した汚れや皮脂の中のウイルスは消毒できないので石鹸で洗い落とさなくてはならない
36	×	リスクが高いのは感染者が多い地域への移動だけである
37	×	施設内で感染者が発生してない時点では利用者同士の感染防止対策は必要ない
38	○	
39	×	施設は不特定多数の人が出入りする場所ではないので、関係者への通知が徹底できれば公表の必要はない
40	×	P C R 検査は唾液・鼻ともに精度が90%前後なのでしばらくの間はバイタルチェックなどの管理が必要

MS&AD あいおいニッセイ同和損保